

「さんべ冬ステージ」

1 趣 旨

- ・主体的に社会に参画しようとしている青年が、将来のリーダーとなるための、リーダーシップを身につける上での体験を通じた学びの場を提供する。
- ・リーダーシップをキーワードに、企画・運営の様々な場面で合意形成・問題解決を繰り返す中で、対人関係能力等リーダーとして必要な資質の向上を図る。

2 事業の概要

- (1) 期 日
- ①企画編 1 平成 29 年 11 月 17 日 (金) ～ 11 月 19 日 (日) 【2泊3日】
 - ②企画編 2 平成 29 年 12 月 2 日 (土) ～ 12 月 3 日 (日) 【1泊2日】
 - ③試行編 平成 29 年 12 月 16 日 (土) ～ 12 月 17 日 (日) 【1泊2日】
 - ④準備編 平成 30 年 1 月 13 日 (土) ～ 1 月 14 日 (日) 【1泊2日】
 - ⑤本番編 平成 30 年 1 月 19 日 (金) ～ 1 月 21 日 (日) 【2泊3日】

(2) ボランティア参加者

- ①企画編 1 5 名 (大学生 5 名) ※募集 20 名
- ②企画編 2 11 名 (大学生 11 名) ※募集 20 名
- ③試行編 8 名 (大学生 8 名) ※募集 20 名
- ④準備編 19 名 (大学生 19 名) ※募集 20 名
- ⑤本番編 20 名 (大学生 20 名) ※募集 20 名

- (3) 「縁-EN-JOYさんべ」参加者 32 名 (10 家族) ※募集 60 名程度

- (4) 講 師 リードクライム株式会社 代表取締役 西 直人 氏 (①企画編 1 のみ)

(5) 主な研修内容

【①企画編 1】

1 日目	○アイスブレイク ○講義・演習 ○ブレイン・ストーミング
2 日目	○講義・演習 (ブレイン・ストーミング、事業目標やメインターゲットの設定)
3 日目	○講義・演習

【②企画編 2～④準備編】

1 日目	○アイスブレイク ○テーマ確認 ○企画についての検討・試行・準備
2 日目	○企画の見直し・試行 ○ふりかえり

【⑤本番編】

1 日目	○テーマ確認 ○企画の準備
2 日目	○企画の準備 ○企画の運営「縁-EN-JOYさんべ 1 日目」
3 日目	○企画の準備 ○企画の運営「縁-EN-JOYさんべ 2 日目」 ○ふりかえり

(6) 「縁-EN-JOYさんべ」の日程

一 日 目	10:30	11:00	12:00	13:30	14:00～	17:10	18:45～	19:30	20:30	22:30
	入所・受付	アイスマインの会 ①	昼食・休憩	アイスブレイク②	企画① 「我らはゆきんこ！ さんべの雪を カラフルに」 ～カラー雪像づくり～ ～写真撮影～	夕飯・休憩 夕べのつどい	企画② 「みんなで当てよう！ そこにいるのは だーれだ!？」 ～雪像シルエット クイズ～	レクリエーション	自由時間 入浴	就寝

二 日 目	6:30	7:00	7:40	8:40	9:00～	12:00	13:00	14:00
	起床	朝のつどい	朝食	退所点検	企画③ 「創ってゆきんこ 思い出をカタチに」 ～オリエンテーリング &写真立てづくり～	昼食・休憩	帰りの会	解散

3 事業の内容

(1) 事業の特色

本事業は、第5回目に行う自主企画事業の企画から運営に至るまでを全て参加者である当所の法人ボランティア（以下：さんボラ）が行うものであり、自分たちで主体的に活動していく。企画・運営における様々な場面で合意形成・問題解決を繰り返すことで、対人関係能力等リーダーとして必要な資質の向上を図ることをねらいとしている。

(2) プログラムデザインと企画のポイント

本事業は、全5回の構成とした。「①企画編1」では、昨年度の「企画力・運営力アップセミナー」を兼ね、企画を立てる上で重要なポイントや、企画のノウハウを講師による講義・演習を通して理解しながら、自分たちで行う事業の方向性を固めることができるようにした。それを元に、「②企画編2」では、広報の方法の検討やチラシの作成、プログラムの検討を行い、「③試行編」では、考えたプログラムの試行を通して、リスクマネジメントや、更なる改善に向けて話し合えるようにした。「④準備編」では、本番での運営者側（さんボラ）と自主企画事業の参加者（以下：「縁-EN-JOY さんべ」参加者）の動きを再確認することで、リスクマネジメントを徹底した。「⑤本番編」では、実際に事業運営を行う。

4 成果と課題

〈成 果〉

- ・「①企画編」で講師から企画を立てる際のポイントを具体的に教わりながら、自分たちが行う事業の目的やメインターゲットなどについて話し合い、設定した。「同じイベントでも思いやねらいが違えば全く別物になることがわかった。」との感想から、「情報共有」を大事にしていこうという雰囲気が強まった。その結果、新たなメンバーが増えても軸がぶれずに、企画をもとに運営を進めていくことができた。過去の話し合いや準備の記録を各回の研修ノートに載せたり、冬ステージの会場に掲示したりすることで、常に自分たちが設定したねらいを意識できるようにしたことも効果的であった。
- ・「④準備編」で豊富にあった雪が、1週間後の「⑤本番編」では急激な気温上昇や雨の影響でほとんどなくなった。準備をしていた雪の中での活動を急遽変更せざるを得なかったが、役割を分担し、情報を共有しながら臨機応変に動くことで、短時間でプログラムを変更することができた。雪がなかったにも関わらず「縁-EN-JOY さんべ」参加者の高い満足度につながった。
- ・平成29年度に実施したボランティア養成事業は、大学4回生の参加がほぼなかったが、今回は3人参加した。豊富な経験を活かし、縁の下の力持ちとして上手に話し合いを進めたり指示を出したりと、下の回生に対して良いリーダーシップのモデルとなった。「4回生のような、さんボラになりたい。」という声が複数聞かれた。
- ・昨年度の反省を活かし、「⑤本番編」の後日、島根大学を会場として「縁-EN-JOY さんべ」の振り返りを行う機会を設定した。よかった点と次への改善点などを共有し、最終的に担当職員によるフィードバックを行った。さんボラが自分たちの成長した部分、これからの課題点を具体的に浮き彫りにすることができ、今後の活動への意欲を高めることができた。

〈課 題〉

- ・「①企画編1」から「③試行編」は、島根大学教育学部の集中講義の日程と重なったことで参加者がとても少なく、全5回参加したものは3名だけであった。特に「企画編①」は自分たちが行う事業の根幹を決める重要な回であり、講師を招いて企画の基礎的な知識・理解を得られるように計画している。周辺の大学や高校の集中講義や学校行事等の日程を把握し、調整することで多くの人が参加できる期日を設定する必要がある。
- ・今後のボランティア養成事業において、同学年・同年齢による「横のつながり」だけでなく、本事業のような先輩ボランティアと後輩ボランティアの「縦のつながり」をいかにして継続的に構築していくかが課題である。



「①企画編1」講師の西氏による講義・演習。



「④準備編」雪の中での試行・準備。



「⑤本番編」雪のない中、代替プログラムを実施。体を動かすもの、創作など、様々な活動を展開した。



参加者作成チラシ